

# 事業研究委員会

## 一 テーマ

教職員の自主的・主体的な研修を促すために、特に ICT を活用した事業や活動について研究し、これからの小県上田教育会のあり方について答申する

## 二 テーマ設定の理由

昨年度から、教育会活動のオンライン化と、GIGA スクール構想を見据えた本委員会主催の研修会を開催してきた。その結果、多くの会員から事業や活動のオンライン化の継続と推進を望む声が挙がり、GIGA スクールに関する研修から教職員の不安感や負担感を感じ取ることができた。

そこで、今年度はコロナ禍における教育会事業のオンライン化の継続しながら、ICT を活用した新たな事業や活動の研究を通して、教職員の自主的・主体的な研修組織の機能向上につなげていきたいと考え、本テーマを設定した。

## 三 研究の計画

委員 6 名（推進係含む）で 3 つの ICT チーム（①オンライン ICT 講座チーム ②オンライン委員会チーム ③教材共有チーム）を構成し、以下のように研究を進める。

### 1. 検討期（4～7月）

日頃の授業改善に生かすことのできる委員会活動や研修会、オンラインでの委員会活動、他校との教材共有のあり方について先行事例調査を進め、月 1 回委員会でチームごとに方向性を提案し、推進係の助言を受けながら実践までの計画を検討する。

### 2. 実践期（8～12月）

本委員会の計画とともに、教育会事業のオンラインサポートをフォローしながら、計画を推進する。

### 3. 検証期（1～3月）

実践後、各委員会や会員へのアンケート・インタビュー調査によって得られた回答を基に、ICT を活用した小県上田教育会の事業・活動によって、教職員の自主的・主体的な研修が促されたか検証を進め、今後の教育会とはどうあればよいか答申する。

## 四 研究の実際 —実践を中心に—

### 1. オンライン ICT 講座

講座名 「わくわくオンライン講座 一人一台端末、どう使っていますか？」

日 時 9月5日（金）15：30～16：30

内 容 ①小学校・中学校からの実践発表 ②校種別意見交換会

参加者 15名

助言者 上田市情報処理センター職員 3名

考 察 夏季休業中での開催を検討していたが、数々の研修会と重なることからやむなく通常の平日に開催となった。小学校や中学校、養護学校から自主的な参加者が集まり、特に意見交換会では困り感を出し合って、情報交換を行う主体的な場とな

っていた。また、市町村での ICT の活用状況の差に驚きを見せる参加者の様子が見られた。さらに、参加者からは「教育会というよさを生かして、自分の学校や市町村だけでなく、上小地区として情報交換・教材共有できる仕組みを作ってほしい」と要望が挙がった。

## 2. 端末やってみて委員会 (YOUTUBE) 委員会

委員数 32 名 (校種別内訳 : 小学校 21 名・中学校 7 名・養護学校 4 名)  
(設置者別内訳 : 上田市 21 名、青木村 2 名、東御市 5 名、県 4 名)

配信動画 6 本 (2022.1.5 現在)

視聴回数 176 回

考察 各校チラシを 2 枚 (回覧用・掲示用) 配布した結果、想定以上の 30 名を超える方が委員となっている。小学校の実践事例を紹介しているが、委員からは「このような企画をありがとうございます！動画が短い分気軽に観られていいですね。やってみたいと思うばかりでなかなか手をつけられずにいましたが、二学期は積極的に取り組んでみようと思いました。」というコメントや、動画内容の疑問点などが質問としてコメントが投稿され、双方向のやりとりも行われている。

## 3. 教材共有ドライブ

目的 小県上田教育会の横のつながりを生かして、上小地区の中学校における教材・情報共有を積極的に推進し、学校規模、教科会の違いにおける教材作成能率・教科研究機会の格差是正を図ることを目的とする。

方法 市町村・県から配布された Google アカウントを用いた Google ドライブ上での教材・情報交換

考察 教材共有の必要性については、本委員会による会員対象のアンケート調査結果に基づき、3 年前から検討が重ねられてきた。学校内の情報が外部に流出することの心配の声が挙げられたが、目的を再度確認し、教育会の横のつながりを最大限に生かすことのできる企画として、校長会等に後押しをいただいて実現した。より多くの教職員による活用が促進されていくためには、これから周知を図る必要がある。

## 五 研究の成果と課題

ICT を活用することで、本委員会の活動に自主的・主体的な教職員の参加を得ることができた。特に、オンラインでの動画配信や教材共有は時間の制約がない。必要とする教職員が必要な時、時間に余裕がある時に参加できる形であり、校種や個人による時間や校務の違いにも対応できる。オンラインでの委員会や活動は録画を行い、欠席者や興味関心のある教職員への配信などを行うことは、さらに自主的・主体的な会員を増やすことにもつながると考える。また、教育会では ZOOM を活用したオンライン会議が進んでおり、資料の共有やグループトークなども容易に行うことができ、他の委員会でも今後積極的に導入が図られることで、同様の効果が得られることも期待される。

本委員会では、月1回のZOOMによる委員会活動によってこれらの研究活動を進めてきた。これらが滞りなく委員会活動が進められたのは、オンライン化を図ったことによるものだけではない。委員自身が必要とすること、教育会に必要だと感じてきたことを掘り起こしながら、チームを組み、個々が主体的に活動を進めたことが大きな要因になったと考える。初めてのことに對しても委員同士のつながりだけでなく、教育会の多様なつながりを生かして計画した活動を全て実現することができた。

本委員会で進めてきたICTに関する研修や取り組みも、現在では各校や各種研修機関でも充実を見せ始めている。今後は、ICTだけでなく様々な校務などを視野に入れて、教育会の横のつながりを最大限に活かした新たな研究内容について検討し、教職員の自主的・主体的な研修の場の構築を図りたいと考えている。

今年度は、以上の本委員会の成果と課題もって答申と代えることを申し添える。